

文化財講演会 香取の仏像

群馬県立女子大学（美学美術史学科） 塩澤寛樹

1、導入－香取の仏像を考える背景

(1)日本の社会構造と当地域

- ・平安時代後期までは政治・文化の中心は京都一極に集中
- ・鎌倉時代は、京都と鎌倉の二つの中心をもつ二元的社会
- ・香取地域はいずれともやや距離がある・・・定朝様や運慶様の優作が見あたらない

(2)香取神宮

- ・春日社は香取と鹿島の神を勧請→藤原氏との関係
- ・社領、大禰宜・大宮司の私領が多い 例：織幡は香取社関連の私領
- ・香取海の支配

(3)香取海

- ・香取は海運、水運の拠点

(4)千葉氏と妙見信仰

2、飛鳥・奈良時代

(1)関峯崎横穴群3号墳出土押出仏（三尊像）

- ・古墳出土という伝来の確実性－古墳と仏教文化
- ・押出仏という技法

3、平安時代前期

(1)荘厳寺十一面観音立像

- ・平安前期の大作として
像高 325 cm、一木造。
- ・神仏習合の遺例
主祭神の経津主尊（ふつぬしのみこと）の本地仏
香取神宮の神宮寺であった金剛宝寺伝来

4、平安時代後期

(1)典型的な定朝様は少ない

(2)善雄寺阿弥陀如来坐像

- ・像高 176 cm、体部は元禄十六年～宝永二年(1703～5)にかけての補作か。

5、鎌倉時代～南北朝時代

(1)鎌倉時代前期の作例、特に運慶派の作例はみられない

(2)観福寺懸仏

- ・神仏習合の遺例
香取社四神の本地仏
十一面観音懸仏、釈迦如来懸仏・・・弘安5年(1282)銘。
地藏菩薩懸仏・・・延慶2年(1309)銘。薬師如来懸仏も同じ時の造立か。
- ・仏師と鋳物師
上総鋳物師の存在
仏師蓮願は原型作者か。

・元寇の仏像

天長地久・当社繁昌・心願成就と並んで、異国降伏を祈願

(3) 鎌倉文化圏としての作例

・光福寺釈迦三尊像

建治年中(1275～8)に臨濟宗に改宗という。改宗後の本尊か。当初は建長寺の末寺か。千葉一族の国分氏による造像とみられる。片足を垂らす形も鎌倉文化圏で流行。

・歓喜院十一面観音坐像

鎌倉文化圏特有の法衣垂下式。

(4) 善光寺式阿弥陀三尊像

・信濃(長野)善光寺の秘仏本尊像の模像。鎌倉時代から流行。

・生身の仏像という考え方から理解しようとする説

6、妙見菩薩と千葉氏

(1) 妙見菩薩とは

北極星あるいは北斗七星の神格化したもの。北辰菩薩ともいう。その形は多様であるが、二臂の菩薩形と四臂で龍の上に立つ姿に二分される。

慈覚大師円仁は、承和五年(838)の入唐の航行中、嵐に見舞われ、観音と妙見の名を唱えたことで嵐がやんだという(『入唐求法巡礼行記』)。また、『日本霊異記』下卷三十二話には、海難にあった紀州の漁師が妙見に祈念して命を救われた話がある。

(2) 千葉妙見菩薩の形

①髪を後ろに垂らし(披髪)、前衿の衣、裙を着け、右手に剣を執り、霊亀(玄武)上に立つ(例:東庄町個人蔵像)。

北方を守護する玄武が、道教において擬人化して成立したとされる真武神の図像に、『源平闘諍録』が妙見を「童」とすることを加えて生まれたとの説がある。

②着甲して、左手は刀印、右手は剣を執って、腰掛ける(または立つ)(例:読売新聞社像、多古町妙光寺像、個人蔵正安元年(1299)銘懸仏)。

刀印は真武神の形に基づくとされる。

③髪を後ろに垂らし、着甲して、両手で腹前で剣を下方につき立て、霊亀(玄武)上に立つ(鎌ヶ谷市個人蔵像、銚子市堀内神社建武三年(1335)銘像)。

7、三代安本亀八の山車人形

・初代安本亀八の第三子として明治元年(1868)に生まれたという。明治33年に初代が没したあと、三代を名乗る(先に二代を名乗っていた兄は前年に死去)。父の初代亀八は熊本の仏師の家に生まれ、大阪・東京などで生人形興行で成功を収めたが、終生仏師としての活動もしており、彼の肖像彫刻には仏師としての技法が生かされている。

・三代は、生人形興行を引き継ぐが、やがて美人人形、ウィンドー人形(松屋)、各種人形などを制作。弟子に平田郷陽がいる。

画像リスト

香取市・関峯崎横穴群3号墳出土三尊像押出仏
法隆寺献納宝物198号

香取市・荘巖寺十一面観音立像

いすみ市・小又井区十一面観音立像

京都・平等院阿弥陀如来坐像 天喜元年(1153) 定朝作
銚子市・常燈寺阿弥陀如来坐像
旭市・東栄寺伝聖観音立像
香取市・観福寺観音菩薩立像その一
香取市・善雄寺阿弥陀如来坐像
香取市・観福寺観音菩薩立像その二

神奈川・浄楽寺阿弥陀如来坐像 文治5年(1189) 運慶作
千葉市・東漸寺薬師如来坐像
香取市・西福寺阿弥陀如来坐像
香取市・観福寺十一面観音懸仏、釈迦如来懸仏 弘安5年(1282)
香取市・観福寺薬師如来音懸仏、地藏菩薩懸仏 延慶2年(1309)
香取市・修徳院銅造阿弥陀三尊像 正応3年(1290)
山武市・日吉神社銅造阿弥陀三尊
匝瑳市・如来寺銅造阿弥陀三尊
香取市・織幡区銅造仏像
香取市・光福寺釈迦三尊像
鎌倉市・禅居院観音菩薩坐像
横浜市・慶珊寺十一面観音坐像 正慶元年(1332) 院誉作
香取市・歓喜院十一面観音坐像
東庄町・福寿院十一面観音坐像
鎌倉市・建長寺地藏菩薩坐像
鎌倉市・建長寺宝冠釈迦如来坐像

東庄町・妙見菩薩立像
銚子市・森戸町妙見菩薩像
君津市・青蓮寺妙見菩薩立像 天正19(1591)
多古町・妙光寺妙見菩薩倚像
個人・妙見菩薩懸仏 正安元年(1299)
千葉市・栄福寺妙見菩薩立像 天正四年(1576)
千葉市・光明寺妙見菩薩立像
鎌ヶ谷市・個人蔵銅造妙見菩薩立像
銚子市・堀内神社妙見菩薩立像 建武二年(1335)
銚子市・堀内神社妙見菩薩立像
香取市・本命寺妙見菩薩立像
多古町・日本寺妙見菩薩立像 宝永二年(1705)カ
千葉市・栄福寺千葉妙見大縁起絵巻 延宝六年(1678)

下仲町区菅原道真像 大正10(1921) 三代安本亀八作
荒久区経津主尊像 大正9(1920) 三代安本亀八作
南横宿区仁徳天皇像 大正14(1925) 三代安本亀八作
中宿区桃太郎像 大正11(1922) 三代安本亀八作
東博・衣装人形頭部 1909頃 三代安本亀八作